

早期職業意識涵養を目的とした 体感型教育の先進事例（2）

——北海道の専門学校の取り組み——

吉 野 忠 男

- 1 はじめに
 - 2 卒業後の就職・離職実態
 - 3 専門学校在学生の意識
 - 4 都道府県専各連における「職業体感型教育」の実施状況
 - 5 先進的な取り組み事例
 - 6 新たな連携枠組みの検討
 - 7 職業体感型教育の課題と今後の展望
- 参考文献

5 先進的な取り組み事例

5-1 中学生を対象とした職業体感型教育

5-1-1 次世代人材職業体験推進事業（北海道補助事業）

（1）実施状況

北海道内の中学校は、公立1,038校、私立3校、国立4校の計1,045校（平成30年5月1日）が開校している。今般の次世代人材職業体験推進事業では、平成30年において申込中学校数が255校、実に北海道内中学校の4校に1校が参加している。これは平成27年233校から始まり令和元年では274校に増加している。開講講座数に至っては、平成27年の2,380講座から令和元年3,175講座と5年間に約1.3倍に講座数が増えている。

申込（受講）生徒数は、平成27年11,889人から増加傾向にあった。しかし、平成30年9月6日の北海道胆振東部地震の発生とその後の電源消失によるブラックアウトから専門学校は講座の開講が不可能になったことや講座参加を予定していた中学校が受講を辞退したことなどを原因に、平成30年は12,837人と前年比約11%低下した。札幌市内中学生は平成27年2,253人から増加傾向にあったが、北海道胆振東部地震の発生を原因とした停電の影響から申込（受講）生徒数が約25%と大きく低下した。令和元年には復調に転じ、設定講座数は平成27年255講座から平成30年で262講座と7講座増やしてはいるが、申込者数は北海道胆振東部地震の影響から減少し令和元年に復調している。予算額は、概ね4千万円で推移し、負担金充当額も約39百万円で推移している。

本事業の評価や満足度は高い水準にあり申込講座数や申込生徒数も一定の水準で維持されている。しかし、講座数の増加は負担金充当額と比例して増加する訳ではなく、むしろ

補助金額内でしか執行できないところに問題がある。北海道内の全中学校の4校に1校が参加している中で、それ以上の参加が補助金額で制約されることは新たに参加を望む中学校の期待に応えられないことになる。次世代人材職業体験は北海道内の全中学、全生徒に広く受講の機会が与えられなければ一部の中学、一部の生徒にしか職業体験の機会が与えられないという不公平な状況に陥る。中学生はほとんどが高校への進学、そして大学への進学や就職の時が想定される中で、職業体験は将来の進路選択において重要な機会であり、何よりも学びの機会として人格形成にも大きな影響を与える。

事業内容の賛否や改善の余地はあるにせよ、職業体験の学びの機会が北海道の全中学、全生徒に公平に与えられるべきである。

図表 5-1 次世代人材職業体験推進事業の実施状況

区分	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
I 申込中学校数	233校	255校	265校	255校	274校
札幌市内中学校	21校	22校	21校	21校	23校
II 申込講座数	2,380講座	2,914講座	3,235講座	3,173講座	3,175講座
開催講座数	1,641講座	1,721講座	1,696講座	1,622講座	1,757講座
負担金充当講座数	323講座	318講座	305講座	318講座	322講座
札幌市内中学校	198講座	202講座	245講座	201講座	265講座
III 申込（受講）生徒数	11,889人	12,348人	14,399人	12,837人	13,461人
負担金充当生徒数	3,259人	3,298人	3,445人	3,311人	3,122人
札幌市内中学生	2,253人	2,267人	2,584人	1,944人	2,364人
IV 専修学校参加数	97校	94校	91校	95校	90校
V 設定講座数	255講座	249講座	254講座	262講座	243講座
VI 予算額	40,201千円	40,177千円	40,042千円	40,019千円	40,105千円
補助金額	40,000千円	40,000千円	40,000千円	40,000千円	40,000千円
負担金充当額	38,893千円	38,918千円	38,827千円	38,814千円	38,846千円

出所：北専各連提供資料をもとに著者作成

(2) 実施要領

本事業は、「職業教育の専門機関であり、職業体験施設を保有し、かつ能力開発に関する情報等を豊富に持つ専修学校等が、職業体験の機会に恵まれない中学生に対する『専修学校等を活用した職業体験講座』の開催に対して、負担金を支出することにより支援し、若年層の職業観、勤労観の早期形成を図る」ことを目的としている。

この目的に従えば、北海道内の全中学校、全生徒に職業体験の機会を与えることは不可欠であり、「若年層の職業観、勤労観の早期形成を図る」ことは本事業の根幹をなすものであり、予算額内の実施で講座数や受講人数が制限されることはあってはならない。

また、本事業の効果として、「多様な職業体験の機会により多くの生徒に提供すること

によって、早期に職業観、勤労観の形成を図り、就職後の早期離職や非正規雇用者の増加防止を図る」ことや「雇用のミスマッチを防ぐことにより、道内企業への定着率を高め、道内企業の競争力の向上を図る」ことをあげている。若年層の早期離職が深刻化している中で、中学校の段階で職業体験の機会を持つことは極めて有益である。

その上で、本事業を推進する予算として、職業体験講座を開催した専修学校等に対して、負担金を支出することになっている。

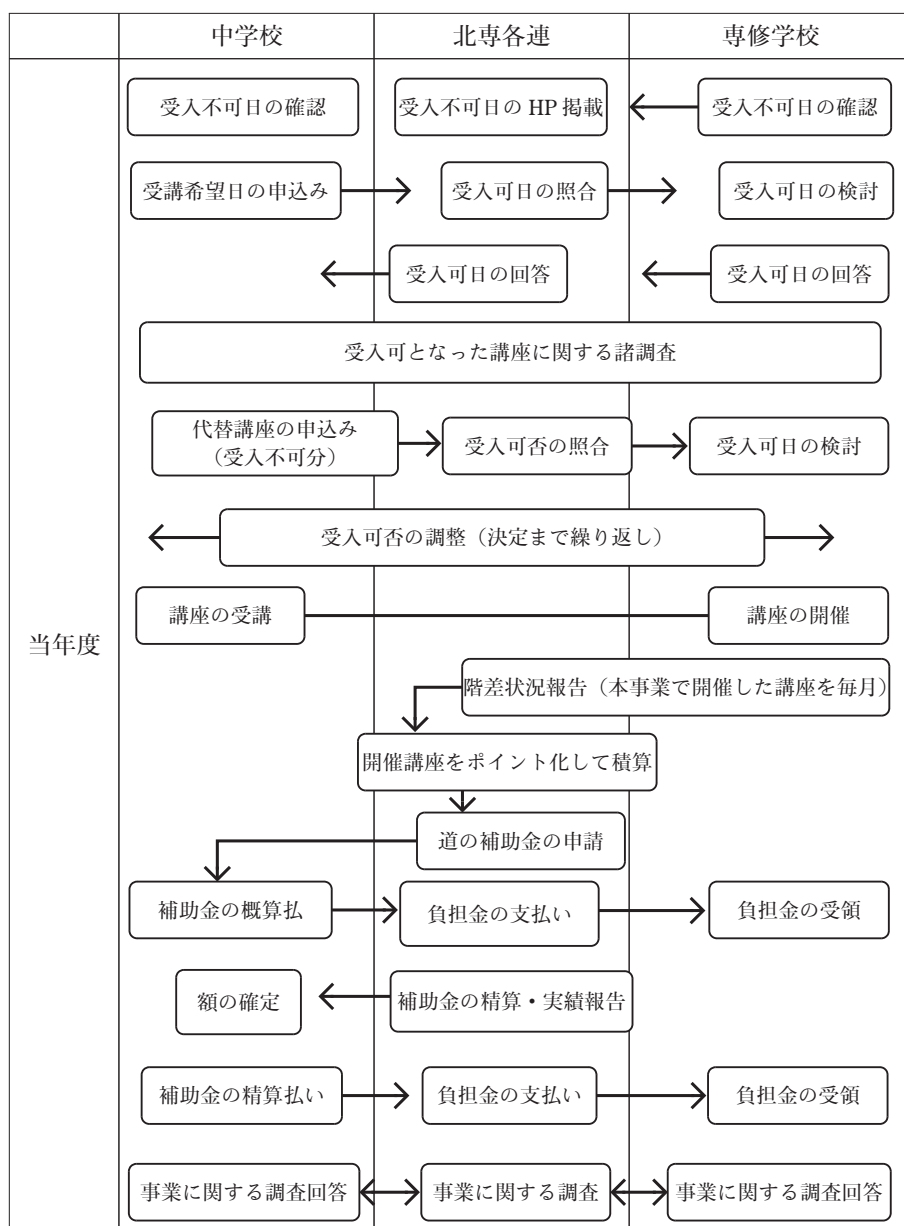
形式的には、専修学校等は毎月末までの職業体験講座の開催状況を「開催状況報告書」に記載し、翌月５日までに北専各連に報告し、北専各連は専修学校等が開催した職業体験講座ごとの受講人員に応じて、ポイントを付与する。ポイント付与方法は、「受講者が５人未満の職業体験講座 1.0pt」「受講者が５人以上10人未満の職業体験講座 2.0pt」「受講者が10人以上の職業体験講座 3.0pt」に区分され、それに応じてポイントが付与される。そして北専各連は専修学校等に付与したポイントの合計に応じた負担金を支出する。付与例は、以下の表のとおりである。

ポイント合計額	負担金の支出額
10 pt	99,000円
15 pt	151,000円

こうした支援策は、専修学校等の職業体験講座の開講意欲を刺激し、積極的な講座開講数の増加、生徒参加への誘因的取り組み、広報活動等具体的な活動にあらわれる。それが学校間の刺激になり開講講座の質的な向上をもたらすことが期待される。その結果、生徒の「職業観、勤労観の早期形成を図る」ことにつながる。

事業の流れは、中学校や専修学校の年間行事や授業日程等をふまえて中学校と専修学校両校の調整を北専各連が行い、専修学校の受入不可日から中学校の受講希望日を確定し、講座の開講となる。しかし、専修学校の受入可能日と中学校の受講希望日は容易に設定される訳ではなく、決定するまで北専各連の調整作業が続くことになる。また、中学校の受講希望日は他の中学校の年間行事が概ね同一のことから重複するケースが多く受講を断念せざるを得ないことも少なからず発生している。このことから職業体験の受講機会が失われることもあるのである。

図表 5-2 事業の流れ



出所：北専各連提供資料をもとに筆者作成

(3) 職業体験講座アンケート結果（札幌市内・札幌市外中学校 平成30年実施）

平成30年に実施された札幌市内・札幌市外中学校の職業体験講座のアンケートでは、担当教員の評価は「とてもよかった」札幌市内10人83.3%，札幌市外89人72.4%と札幌市内中学校の担当教員の方が約10%高い割合であった。もっとも「よかった」札幌市内2件16.7

%札幌市外30件24.4%を加えると、札幌市内の担当教員は100%，札幌市外の担当教員は96.8%とほぼ全員が高く評価している。

図表 5-3 担当教員の評価

	項目	札幌市内		札幌市外	
		人数	%	人数	%
1	とてもよかった	10	83.3	89	72.4
2	よかった	2	16.7	30	24.4
3	どちらともいえない	0	0.0	1	0.8
4	あまりよくなかった	0	0.0	0	0.0
5	まったくよくなかった	0	0.0	0	0.0
※	無回答	0	0.0	3	2.4
計		12	100.0	123	100.0

出所：北専各連提供資料をもとに著者作成

参加生徒の評価は、「とてもよかった」札幌市内11人91.7%，札幌市外90人73.2%であり，「よかった」札幌市内1人8.3%，札幌市外31人25.2%を加えると，札幌市内100%，札幌市外98.4%と高い割合を示している。「とてもよかった」と「よかった」の回答の判断基準がどこにあるのか判然としないが，いずれににしても「よかった」と思った生徒はほぼ全員といえる。

図表 5-4 参加生徒の評価

	項目	札幌市内		札幌市外	
		人数	%	人数	%
1	とてもよかった	11	91.7	90	73.2
2	よかった	1	8.3	31	25.2
3	どちらともいえない	0	0.0	0	0.0
4	あまりよくなかった	0	0.0	0	0.0
5	まったくよくなかった	0	0.0	0	0.0
※	無回答	0	0.0	2	1.6
計		12	100.0	123	100.0

出所：北専各連提供資料をもとに著者作成

次年度に講座利用したいとの意欲は，「ぜひ利用したい」札幌市内10人83.3%，札幌市外87人70.7%であり，「できれば利用したい」札幌市内2人16.7%，札幌市外34人27.6%で「利用したい」との意欲は札幌市内で12人100%，札幌市外で121人98.3%に達する。今年度の講座利用と参加，その成果に対する満足度の高さがうかがえる。

図表 5-5 次年度の講座利用意欲

	項目	札幌市内		札幌市外	
		人数	%	人数	%
1	ぜひ利用したい	10	83.3	87	70.7
2	できれば利用したい	2	16.7	34	27.6
3	あまり利用したくない	0	0.0	0	0.0
4	利用しない	0	0.0	0	0.0
※	無回答	0	0.0	2	1.6
計		12	100.0	123	100.0

出所：北専各連提供資料をもとに著者作成

意見・要望としては、札幌市外の学校から高い評価と満足の見解がある一方で、参加する上で問題となることが具体的に示されている。時間や場所、専門学校側の対応など参加した学校ならではの問題意識を確認できる中で、申込み内容と実際の講座が明らかに異なるようなケースもあり手続きのあり方を再検討すべきことが指摘されている。

- ・中学生の段階において、自己の進路を考えるうえで大変有益な講座です。
- ・中学生が札幌で体験講座に参加する場合、地元でない限り多くは修学旅行の自主研修などで行われる。持参できるものに限りががあるため、上靴やエプロンなどもレンタルさせていただける学校はありがたかった。また、駅周辺や地下鉄ですぐに行けるところは人気がある。
- ・今回、他校生徒の影響（遅刻、私語、態度）で予定されていた活動ができなかったと報告があった。他校とのブッキングは仕方のないことだと思っているが、あまりに目に余る様子があるようなら退出を願うことはできないだろうか。
- ・申し込んだ講座のうち、ひとつだけ打ち合わせと全く違う内容の所があり、生徒にとっても事前学習をして臨んだのに残念なことになってしまいました。体験ということでしたが、ほぼ施設見学と学校の説明だったというものです。

出所：北専各連提供資料をもとに筆者作成

(4)「職業体感型教育」受講後の「事後学習」

「職業体感型教育」を受講した生徒は、単に受講したという経験に終わるのではなく受講した内容を深耕する場を「事後学習」として開催している。北見市立常呂中学校では、自分の目で見えて考え受け止めたことを参加生徒間で議論し自分自身の経験に止めることなく周囲と共有し、さらに発表の機会を得て学習成果に結び付けている。これは生徒の自主性を刺激し「職業体感型教育」を「学びの場」として生徒が受け入れていることの証左といえる。



出所：北見市立常呂中学校提供

5-1-2 進路探究学習オリエンテーリング事業（札幌市教育委員会委託事業）

（1）実施状況

進路探究学習オリエンテーション事業は、目的として「子どもが自立した社会人へと成長していくためには、子ども一人一人が、将来の生き方や進路についてよく考えるとともに、体験を通して働くことの意義を感じ取り、コミュニケーション能力や課題解決能力など社会人として必要とされる知識や技能等を身に付けようとする意欲を高めるなど、発達段階を踏まえ、系統的、計画的な進路探究学習プログラムを確立していくことが必要である。現在、中学校で行なわれている職場体験については、衛生上や安全上の理由等により、見学や単純作業で終わってしまうなど、その目的が達成できないことがあることから、実際に仕事を体験できる専門的な施設、設備での職場体験を行うこととし、『進路探究学習』の一層の充実を図る」ことを掲示している。

事業内容は、「職業教育の専門機関であり、職業体験施設を保有し、かつ能力開発に関する情報等を豊富にもつ専修学校・各種学校と連携し、中学校・中等教育学校の夏季休業期間中に、札幌市内及び近郊の専修学校等を会場とした職業体験講座を実施」することである。対象者は、札幌市立中学校・中等教育学校の1・2年生である。

札幌支部専門学校数は、平成27年度の85校から令和元年度79校にかけてやや低下傾向にある。参加専門学校数は平成27年度の53校を最低に平成30年度60校を最高とし概ね50校以上で推移している。提供講座数は、平成27年度の72講座から令和元年104講座へと大幅に増加しているが、実施講座数は平成29年度の65講座を最少に令和元年83講座にとどまっている。

対象生徒数は中学1年生と未参加の中学2年生で、平成27年度15,025人、以降、14千人台に低下するものの令和元年度は対象を中学1・2年生に拡大したところ28,696人に大幅に増加している。対象中学校数は平成27年度98校から平成28年度以降100校で推移している。受講者数は、平成30年度の756人を除いて増加傾向にあり令和元年度は1,083人に達している。保護者の参加は平成30年度の参加生徒の減少とともに433人に低下したが、平成27年度から受講者数の増加とともに保護者の参加も増加傾向にある。

委託費は平成27年度から平成29年度まで同額の7,236,000円であったが、平成30年度に約30万円増加し令和元年度には9,401,720円であり200万円以上増加している、予定講座増加に合わせて予算額も増額されている。

図表 5-6 「職業体験講座」実施状況（5年間）

区分		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
札幌支部専門学校数		85校	84校	83校	80校	79校
1校当たりの登録数		2講座	2講座以内	2講座以内	2講座以内	3講座以内
参加専門学校数		53校	55校	59校	60校	57校
実施専門学校数		53校	48校	46校	51校	50校
講座数	提供講座数	72講座	75講座	86講座	86講座	104講座
	登録コース数	75コース	78コース	90コース	90コース	107コース
	実施講座数	72講座	64講座	69講座	67講座	83講座
	実施コース数	75コース	67コース	69コース	71コース	86コース
対象生徒 (H30まで中学1年生数)		15,025人	14,699人	14,873人	14,145人	28,696人
対象者		中1生と未参加の中2生	中1生と未参加の中2生	中1生と未参加の中2生	中1生と未参加の中2生	中学1・2年生
対象中学校数	学校数	98校	100校	100校	100校	100校
	参加校数	85校	92校	97校	96校	95校
中学校生徒数	申込者数	1,005人	1,093人	1,255人	894人	1,288人
	受講決定者数	953人	1,020人	1,169人	884人	1,252人
	参加者数	791人	872人	1,014人	756人	1,083人
保護者数	参加予定者数	368人	514人	541人	433人	559人
	参加者数	—	427人	452人	350人	463人
委託費	委託費総額	7,236,000円	7,236,000円	7,236,000円	7,560,000円	9,401,720円
	1講座あたり	76,000円	76,000円	76,000円	76,000円	76,000円
	予定講座数	60講座	60講座以上	60講座以上	68講座以上	83講座以上

出所：北専各連提供資料をもとに著者作成

(2) 生徒及び保護者アンケート結果

生徒アンケートの結果は、「今回の職業体験に参加して良かった」では「そう思う」が90.6%、「大体そう思う」9.0%を加えると99.6%が「良かった」との回答である。

「働きたいとの気持ちが前よりも強くなった」では、「そう思う」が62.7%、「大体そう思う」30.1%で、合わせて93.8%で高い割合を示している。

「将来の夢や目標について考えた」では、「そう思う」が56.8%、「大体そう思う」35.1%で、合わせて91.9%と「思う」割合が90%以上の水準である。

「将来の夢に向けて、何をしたらよいのかを考えた」では、「そう思う」が44.2%、「大体そう思う」43.2%で同水準にあるが、合わせると87.4%と高い割合を示している。将来の夢が漠然としていることもあって強く「そう思う」とは断定できない事情が推察される。

「学校の学習と、仕事のつながりを感じた」では、「そう思う」が45.0%、「大体そう思

う」37.5%と続き、「あまりそう思わない」10.4%、「そう思わない」1.8%と合わせて12.2%の水準であり、「わからない」5.4%と「学習と仕事のつながり」への戸惑いのようなことが考えられる。

「難しいことでも失敗を恐れず、挑戦することが大事だと思った」では、「そう思う」が66.7%、「大体そう思う」27.6%で、合わせると94.3%と高い割合を示している。職業体験の場で「うまくいかなかった」ことが念頭にある回答だと思われる。

「自分にはよいところがあったと思った」では、「大体そう思う」40.2%が最も高く、次に「そう思う」が24.1%で、「あまりそう思わない」が19.2%、「そう思わない」4.4%で「自分のよいところ」の発見には至っていないことや「わからない」12.1%と比較的高い割合になっていることから「自分のよいところ」の自覚が足りないものといえる。

「このような体験は小学校の時から必要だと思った」では、「そう思う」が55.1%、「大体そう思う」30.3%で、合わせて85.4%と高い割合を示す一方で、「あまりそう思わない」8.6%、「そう思わない」1.5%、合わせて10.1%あり、小学生には職業体験はやや難しいとの印象があるものと推察される。

「機会があれば、他の体験もしてみたいと思った」では、「そう思う」が76.8%、「大体そう思う」16.9%で、合わせて93.7%と高い割合にあることから職業体験の満足度の高さがうかがえる。

図表 5-7 参加生徒のアンケート結果

	そう思う	大体 そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	わからない
1. 今回の職業体験に参加して良かった	90.6%	9.0%	0.2%	0.1%	0.1%
2. 将来、働きたいという気持ちが前よりも強くなった	62.7%	30.1%	4.4%	0.7%	2.2%
3. 将来の夢や目標について考えた	56.8%	35.1%	4.5%	1.4%	2.2%
4. 将来の夢に向けて、何をしたらよいのか考えた	44.2%	43.2%	7.8%	1.5%	3.2%
5. 学校の学習と、仕事のつながりを感じた	45.0%	37.5%	10.4%	1.8%	5.4%
6. 難しいことでも失敗を恐れず、挑戦することが大事だと思った	66.7%	27.6%	3.3%	0.3%	2.1%
7. 自分にはよいところがあったと思った	24.1%	40.2%	19.2%	4.4%	12.1%
8. このような体験は小学校の時から必要だと思った	55.1%	30.3%	8.6%	1.5%	4.5%
9. 機会があれば、他の体験もしてみたいと思った	76.8%	16.9%	3.4%	1.2%	1.8%

出所：札幌市教育委員会（2019）『進路探究学習 報告書』を基に筆者作成

生徒の自由記述は、第一位「楽しかった・面白かった・嬉しかった」で349人46.2%で

あった。第二位は「良かった・良い体験になった」で191人25.3%である。第三位は「ありがとうございました」で171人22.6%である。第四位は「また参加したい・違う体験もしたい」98人13.0%，そして第五位は「よく分かった・分かりやすかった・理解できた」で89人11.8%であった。職業体験参加の高い満足度，良い経験，感謝がうかがえる。

一方で，保護者のアンケートは，「職業体験に参加させて良かった」では「そう思う」が83.6%，「大体そう思う」15.6%で，合わせると98.6%と高い割合になっている。

「将来のことを考えるきっかけになった」では，「そう思う」が60.9%，「大体そう思う」32.4%で，合わせると93.3%と高い割合になっている。

「学校の学習と，仕事のつながりを感じた」では，「そう思う」が47.7%，「大体そう思う」35.3%で，合わせると83.0%と高い割合を示すものの「あまりそう思わない」12.1%「そう思わない」1.0%が合わせて13.1%と一定の水準にある。学校の学習内容と仕事のつながりは「あまりない」との認識が推察される。

「難しいことでも失敗を恐れず，挑戦することが大事だと思った」では，「そう思う」が66.9%，「大体そう思う」26.9%で，合わせると93.8%と高い割合を示している。

「このような体験は小学校の時から必要だと思った」では，「そう思う」が50.8%，「大体そう思う」31.1%で，「あまりそう思わない」13.9%と小学生は「まだはやい」との認識が推察される。

「機会があれば，他の体験もさせてみたいと思った」では，「そう思う」が85.4%，「大体そう思う」13.4%で，合わせると98.8%と高い割合を示している。就業体験への満足度，評価の高さがうかがえる。

保護者の自由意見の上位は，第一位「ありがとうございました・感謝します」142人49.8%で就業体験への感謝が最も高い割合にある。第二位「良かった・良い体験だった・良い機会になった」92人32.3%，第三位「楽しそうだった・見学者も楽しめた・おもしろかった」70人24.6%，第四位「貴重な経験をさせてもらった・有意義だった」29人10.2%，第五位「将来について考えるきっかけになったと思う」25人8.8%の順である。生徒である子息を親目線で見た「子どもがおもっている」ことを代弁したような結果になっている。「専門学校のことが分かった・専門学校に興味をもった」とする回答が8人2.8%に過ぎないことは就業体験の意義を理解していないのではないかという疑念も生じる。「将来について考えるきっかけ」との認識は歓迎したいが，家庭内ではこの就業体験とは別に将来の仕事や就職先のことをあまり考えてはいないのではないかと推察される。進路の相談相手が「母親」や「両親」である親族であることを考えれば保護者がもっとしっかり考え子息と向き合うことが必要と思われる。

図表 5-8 保護者のアンケート結果

	そう思う	大体 そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	わからない
1. 職業体験に参加させて良かった	83.0%	15.6%	1.0%	0.2%	0.2%
2. 将来のことを考えるきっかけになった	60.9%	32.4%	3.1%	0.5%	3.1%
3. 学校の学習と、仕事のつながりを感じた	47.7%	35.3%	12.1%	1.0%	4.0%
4. 難しいことでも失敗を恐れず、挑戦することが大事だと思った	66.9%	26.9%	4.2%	0.3%	1.7%
5. このような体験は小学校の時から必要だと思った	50.8%	31.1%	13.9%	0.0%	4.2%
6. 機会があれば、他の体験もさせてみたいと思った	85.4%	13.4%	0.7%	0.0%	0.5%

出所：札幌市教育委員会（2019）『進路探究学習 報告書』をもとに筆者作成

（3）参加学校及び生徒、保護者からの声

職業体験が終了した後、参加学校の校長、担当教諭、生徒そして保護者から多数のお礼状が届いている。以下に一部と中には長文のお礼状もあるため抜粋して掲載した。

内容は、職業体験に参加したお礼がほとんどであるが、その共通するところは将来の職業選択や就職において考える機会になったことや動機づけ、生徒に至っては実際の就業に関われたことの感動や仕事に関する新たな発見など普段の授業には無い体験ができたことへの感動がつづられている。また、参加学校では、こうした生徒の体験を授業内で再検討することやその成果を発表する機会をつくるなど生徒の職業意識をさらに高める取り組みや工夫が見られることである。職業体験を一過性のイベントにするのではなくさらなる学習の機会として再活用することは極めて重要である。

こうした感謝状は、専門学校、教職員などにとって今後の活動意欲を高めるものであり職業体験講座の質的向上をもたらすものとして歓迎すべきことである。

①千歳市立中学校 校長

「憧れの職業に就くための道筋を知るだけではなく、実際に行なわれている授業や実習を体験させていただいたことは、子どもたちにとって大変貴重な経験となりました。子どもたちの感想などからも、多くのことを体得できたものと確信しております。これも、ひとえにご協力をいただいた皆様のおかげと、心より感謝申し上げます。

現在、本校では、今週行なわれる発表会に向け、「職業体験」学習のまとめに取り組んでおります。子どもたちがお互いの体験を交流しあうことにより、いろいろな職業や仕事があることを知り、自分の将来を見つめることができるような発表会にしたいと考えております。

②札幌市内中学校 校長

生徒たちは日常の学校生活では得ることのできない経験を通して、将来の職業および自分たちの進路についての学習を深めることができました。

③釧路市立中学校 校長

生徒は体験を通して、社会には様々な職業があることを実感し、自己の将来や進学イメージを膨らませることができたようです。— 略 —

今後は、生徒・教師一同でこの成果を分かち合い、子供たちの進路実現に向けてさらに努力していきたいと考えております。

④札幌市内中学校 教諭

事後学習として、子どもたち1人1人が、まとめレポートを書きました。A4用紙の上半分に思い思いのイラストを描き、下段には作文を書きました。その後、訪問先学校毎に集まって、発表会を行い、学年集会で発表する代表者を決めました。どの子も自分が勉強になったことや感じたことなど自分の言葉で発表しました。— 略 — 全員のまとめレポートは本校廊下の掲示板にはって、学年の子どもたちが自由に読めるようにして交流しています。この後、懇談で来校された保護者の皆様にも見ていただく予定です。

⑤中標津町立中学校 教諭

先日は本校の修学旅行での学校訪問に多大なるご協力をいただきまして誠にありがとうございました。— 略 — お蔭さまで生徒たちは中標津では味わうことができない、充実した素晴らしい経験をすることができました。— 略 — 修学旅行を終え、学校に戻ってきた生徒たちは、旅行中の出来事や学校訪問での体験を夢中で語り合っております。3年生にとって残りわずかの中学校生活に張り合いを持ち、自分の進路について真剣に考えるよい機会にもなったようです。

⑥札幌市内中学校 生徒

今回の学習は、幼い頃からの夢である美容師に近づけるという絶好の機会でもとても興奮していました。自分がやっていた髪の切り方やハサミの使い方から持ち方も楽しく分かりやすく教えて頂き、今までより一層美容師になりたいという思いが深まりました。本当にありがとうございました。

⑦中標津町立中学校 生徒

今回の学習で一番印象に残ったことはヘアアレンジ体験です。今までできなかったあみこみを優しく教えてもらい、実際にできるようになって、とても嬉しかったです。

今回の体験を機に自分の目標を見つめなおし、将来の進路について真剣に考えていきたいと思います。この度はたいへんありがとうございました。

⑧釧路市立中学校 生徒

今回の授業を体験し、お客さんのご要望の髪型にする難しさを学びました。また、ヘアカットをした時に髪をきれいにそろえてきることができた時の喜びと達成感を感じました。とても貴重体験ができたと思います。

今回の体験学習をして、今後の自分の進路実現に向けて努力していきたいと思います。

⑨釧路町立中学校 生徒

私の中での将来の夢はまだ決まっていなかったのですが、訪問する前までは私の中では人に何かを届ける、人のために何かをしたいと言う思い、人と接客することがしたいと思っていました。美容の中でも世界は広くとても興味があり、この機会を通して、この美容専門学校に行くことができるととても嬉しい限りです。— 略 —

今回の貴校への訪問は進学先を決定するうえでとても参考となるものになりました。また、将来に向けて家族の人と話しをし、— 略 — 将来の目標に向け、今の自分には何をすべきかを学ぶことができたと思います。

⑩保護者

教わった用語なども覚え、家でも色々と調べ、自主的に学習にはげんでいます。この度の学びを将来や進路決定の際にもいかしていきたいと思います。

※お礼状の内容を尊重し原文のまま記載した（但し、内容を勘案し一部省略した）。

5-2 高校生を対象とした職業体感型教育

5-2-1 専門学校等進路相談会

「2019専門学校等進路相談会」は、北海道高等学校・専修学校連絡協議会及び公益社団法人北海道私立専修学校各種学校連合会により開催されている。参加生徒の質問や確認内容では、「入学条件、試験」が19.2%と昨年（19.0%）と同水準で最も高い割合であった。次に「学科内容、授業内容」が17.2%で昨年（14.4%）より約3%上昇している。「入学金・学費」は13.5%で昨年（15.5%）より2%低下している。

一方、「求人状況、就職実績」は7.5%で昨年（6.5%）より1%上昇してはいるものの決して高い水準ではない。これは、相談会に参加する以前に専門学校毎の就職実績を確認していることやテレビ・新聞報道などで現在の求人状況が人手不足もあり「売り手市場」になっていることから生徒・学生側が有利との情報を有していることが背景にあると考えられる。

図表 5-9 専門学校等進路相談会における質問・確認内容

開催月日	3/19	3/20	4/22	4/24	5/8	合計	回答率	回答率 (昨年)
会場	北見	釧路	瀧川	函館	稚内			
入学条件, 試験	36	73	65	27	28	229	19.2%	19.0%
求人状況, 就職実績	18	25	26	9	11	89	7.5%	6.5%
学校の特色, 進学方法や学生生活	18	52	22	7	22	121	10.2%	10.9%
学科内容, 授業内容	41	71	42	23	28	205	17.2%	14.4%
入学金, 学費	26	45	43	24	23	161	13.5%	15.5%
資格実績	17	24	15	10	11	77	6.5%	7.7%
アパート, 下宿, 寮	12	14	16	3	14	59	5.0%	5.2%
私設, 設備	12	20	16	7	14	69	5.8%	6.2%
奨学金, 特待生制度	11	33	26	16	11	97	8.2%	8.8%
大学, 短大閉眼制度	0	7	1	1	1	10	0.8%	0.6%
研修, 編入制度	1	0	1	0	0	2	0.2%	0.3%
その他	3	5	0	0	2	10	0.8%	0.4%
無回答	17	12	23	2	7	61	5.1%	4.6%
計	212	381	296	129	172	172	100.0%	100.0%

出所：北専各連提供資料をもとに著者作成

5-2-2 高等学校内キャリア教育プログラム

(1) キャリア教育プログラムの概要

キャリア教育プログラムは、「専門学校講話」「職業・講種講話」「体験型授業」「校内進学相談会」の4プログラムで構成されている。

「専門学校講話」では、授業内容や職業と資格取得、就職の状況等について解説している（1講座50分程度）。その内容は、①専門学校の特徴（授業内容、認可・無認可の違い等）、②大学等との相違、③職業と資格取得の関係、④就職の状況、⑤企業が求める人材、⑥入学制度、学費、奨学金制度など専門学校の基本的事項である。

「職業・講種講話」では、特定の職業・職種について仕事内容や魅力、必要な資格などの説明である（原則として1講座50分、10講座まで）。

「体験型授業」では、特定の職業に従事するために必要な知識や技術等に関して専門学校が行っている授業を提供することである。中学生や高校生に対し職業の内容をふまえ、それに必要な知識や技術の習得を講義する内容になっている。

「校内進学相談会」は、各専門学校の教育内容や特色、入学試験制度、学費などの相談説明会である。

図表５－10 キャリア教育プログラム区分・内容

	区分	内容	メリット
専門学校講話	専門学校の授業内容などの特徴や職業と資格取得の関係、就職の状況等について、詳細な情報を提供します。 (1講座50分程度)	①専門学校の特徴（授業内容、認可・無認可の違い等） ②大学等との相違 ③職業と資格取得の関係 ④就職の状況 ⑤企業が求める人材 ⑥入学制度、学費、奨学金制度など	①各学年・各学科のニーズに合わせた、様々な職業・職種を知ることができます。 ②高校生の多様な就業ニーズに合わせて説明を受けることができます。
職業・職種講話	特定の職業・職種について仕事内容や魅力、必要な資格などを具体的に説明します。 (原則として1講座50分、10講座まで)	職業分野の個別の職業・職種について、具体的な仕事内容やその魅力、必要な資格就職状況などを詳しく説明します。	③この講話を通して、具体的な目標を持って勉学に励むことができます。
体験型授業	特定の職業に従事するために必要な知識や技術等に関し、専門学校が行っている授業を提供します。	専門学校の教えている講義型授業、実習形授業を提供します。 (ホームページHSUを参照してください。)	①専門学校で修得する技術を具体的に学ぶことで、多様なキャリアを知ることができます。 ②体験型授業を通して、職業・職種に興味を持ち、更に勉学に励むことができます。
校内進学相談会	体育館などにおいて、専門学校毎の個別ブースを設け、生徒の希望にそって専門学校の概要を説明します。	各専門学校の教育内容、特色、入学試験制度、学費などについて説明いたします。	①総合的な学習の時間の中で専門学校を知る機会を得ることができます。 ②他施設（公民館やホテル）への移動する必要がありません。

※HSUは北海道私立専修学校各種学校連合会の略称

出所：北専各連提供資料（2019年版）をもとに著者作成

（２）キャリア教育プログラム開催実績

①職業・職種講話

職業・職種講話は、９月と１月を除いて５月から３月まで毎月開催している。18校の参加により183講座、2,892人の生徒が参加している。

図表 5-11 職業・職種講話

月	日	学校名	講座数	生徒数	月	日	学校名	講座数	生徒数
5	8	苫前商業高等学校	10	54	12	5	美幌高等学校	9	183
5	9	千歳北陽高等学校	15	412	12	5	網走南ヶ丘高等学校 定時制	4	34
6	20	岩見沢東高等学校定 時制	5	22	12	5	苫小牧西高等学校	18	298
7	24	遠軽高等学校	15	563	12	7	津別高等学校	8	130
7	24	小樽未来想像高等学 校定時制	3	32	12	12	苫小牧西高等学校	18	318
8	24	訓子府高等学校	11	124	2	8	伊達高等学校	11	136
10	3	湧別高等学校	10	76	2	14	札幌白陵高等学校	4	43
10	24	東川高等学校	10	136	3	12	名寄産業高等学校	17	200
11	2	倶知安高等学校	15	131	計		16校	183	2,892

出所：北専各連提供資料をもとに著者作成

②専門学校講話

専門学校講話は、4月2回、6月7月11月2月3月各1回開催し、7校、7講座、309人の生徒が参加している。富川高等学校と札幌英藍高等学校は保護者も参加している。

図表 5-12 専門学校講話実績

月	日	学校名	講座数	生徒数	月	日	学校名	講座数	生徒数
4	21	富川高等学校 (保護者)	1	7	11	8	北広島西高等学校	1	97
4	24	旭川藤女子高等学校	1	51	2	5	札幌平岡高等学校	1	50
6	8	長万部高等学校	1	7	3	19	根室高等学校	1	90
7	3	札幌英藍高等学校 (保護者)	1	7	計		7校	7	309

出所：北専各連提供資料をもとに著者作成

③体験型授業

体験型授業は、5月から翌年3月まで毎月実施されている。札幌市内近郊の開催回数がやや多いが、北海道内の道東、道北を中心に全域にわたり開催している。開催校24校、150講座、2,389人の生徒が参加している。

図表 5-13 体験型授業実績

月	日	学校名	講座数	生徒数	月	日	学校名	講座数	生徒数
5	18	日高高等学校	2	21	10	30	本別高等学校	1	14
6	8	月形高等学校	8	155	11	7	札幌啓北商業高等学校	10	293
6	20	上富良野高等学校	7	57	11	8	双葉高等学校	1	15
6	20	弟子屈高等学校	5	27	11	12	苫前商業高等学校	1	4
7	12	双葉高等学校	1	16	11	14	天塩高等学校	4	56
7	19	双葉高等学校	1	16	11	14	札幌西陵高等学校	3	77
7	20	檜山北高等学校	12	364	11	16	南幌高等学校	7	37
7	23	利尻高等学校	1	8	12	4	札幌月寒高等学校 定時制	6	87
8	23	双葉高等学校	1	16	12	13	伊達・虻田高等学校	15	222
9	12	留萌高等学校	6	196	12	13	双葉高等学校	3	56
9	13	双葉高等学校	1	15	1	24	双葉高等学校	2	31
9	18	倶知安高等学校	12	98	1	26	美深高等学校	1	11
9	21	訓子府高等学校	7	118	1	31	双葉高等学校	1	16
10	18	釧路湖陵高等学校 定時制	6	28	2	14	双葉高等学校	1	16
10	22	岩見沢東高等学校 定時制	3	20	3	8	石狩翔陽高等学校	5	95
10	22	岩内高等学校	11	120	3	15	厚真高等学校	6	42
10	26	日高高等学校	4	42	計		24校	150	2,389

出所：北専各連提供資料をもとに著者作成

④校内進学相談会

校内進学相談会は、江差高等学校で25講座、13人の生徒が参加している。別海高等学校では、40講座、218人の生徒が参加している。合計、65講座、231人の参加である。

図表 5-14 校内進学相談会実績

月	日	学校名	講座数	生徒数	月	日	学校名	講座数	生徒数
4	26	江差高等学校	25	13	11	22	別海高等学校	40	218
					計		2校	65	231

出所：北専各連提供資料をもとに著者作成

(3)「職業・職種講話」「体験型授業」参加者のアンケート結果

①「職業・職種講話」参加者のアンケート結果

「職業・職種講話」では、「保育・介護福祉」が351人13.6%で最も多く、次いで「公務

員ビジネス」が287人11.1%、「医療」283人11.0%と続いている。「看護」15人0.6%を除いて、保育・公務員・医療への人気が高いものといえる。

図表 5-15 職業・職種講話受講者の希望分野

	職業・職種講話	1回目	2回目	合計	%
1	保育・介護福祉	194	157	351	13.6%
2	公務員ビジネス	183	104	287	11.1%
3	医療	123	160	283	11.0%
4	パソコン・CG・ゲーム	101	117	218	8.4%
5	工業	105	94	199	7.7%
6	理容美容	98	72	170	6.6%
7	調理製菓	82	84	166	6.4%
8	ホテル観光	92	70	162	6.3%
9	デザイン	64	72	136	5.3%
10	スポーツ	53	69	122	4.7%
11	動物	53	50	103	4.0%
12	音楽放送芸術	40	32	72	2.8%
13	ファッション	20	42	62	2.4%
14	農業	19	12	31	1.2%
15	大学・短大	26	0	26	1.0%
16	看護	0	15	15	0.6%
17	民間就職	1	12	13	0.5%
18	未記入	86	78	164	6.4%
	合計	1,340	1,240	2,580	100.0%

出所：北専各連提供資料をもとに著者作成

②「体験型授業」参加者のアンケート結果

体験型授業受講者では、「公務員ビジネス」が最も高い割合にあり366人14.8%の割合である。次に、「医療」308人12.5%、「調理製菓」285人11.6%と続き、「理容美容」246人10.0%で上位4分野になる。上位4分野で参加人数2,466人のうち約半数1,205人を占めている。

図表 5-16 体験型授業受講者の希望分野

	体験型授業	1 回目	2 回目	合計	%
1	公務員ビジネス	221	145	366	14.8%
2	医療	212	96	308	12.5%
3	調理製菓	183	102	285	11.6%
4	理容美容	158	88	246	10.0%
5	パソコン・CG・ゲーム	122	72	194	7.9%
6	保育・介護福祉	124	69	193	7.8%
7	デザイン	109	59	168	6.8%
8	スポーツ	78	60	138	5.6%
9	工業	88	44	132	5.4%
10	動物	53	51	104	4.2%
11	音楽放送芸術	37	23	60	2.4%
12	ホテル観光	16	18	34	1.4%
13	ファッション	16	8	24	1.0%
14	農業	8	16	24	1.0%
15	大学	0	6	6	0.2%
16	未記入	123	61	184	7.5%
	合計	1,548	918	2,466	100.0%

出所：北専各連提供資料をもとに著者作成

③「なりたい職業」を決めるポイント

「なりたい職業」の決定ポイントは、「やりがい」1,384人20.0%で同水準に「仕事の楽しさ」1,321人19.1%，第3番目に「安定性」1,104人16.0%，第4番目に「夢」1,043人15.1%で，上位4決定ポイントの合計は4,852人で全体6,909人の約7割を占めている。

図表 5-17 受講者の職業決定ポイント

	ポイント	人数	%
1	やりがい	1,384	20.0%
2	仕事の楽しさ	1,321	19.1%
3	安定性	1,104	16.0%
4	夢	1,043	15.1%
5	給料の高さ	718	10.4%
6	将来性	656	9.5%
7	カッコよさ	404	5.8%
8	その他	127	1.8%
	未記入	152	2.2%
	合計	6,909	100.0%

出所：北専各連提供資料をもとに著者作成

④進学選定先の決定ポイント

進学選定先の決定ポイントは、「学費」1,273人19.6%、「就職実績」1,253人19.3%、「資格取得実績」1,230人18.9%、「学校の所在地」1,071人16.5%の順である。学費の負担と学校の所在地は交通費や仕送りなどの経済的負担を考慮していることがうかがえる。一方で、「就職実績」や「資格取得実績」は将来の就職を見据えていることと自己の能力評価を高める手段、業務担当能力など将来担当する仕事を意識していることが理解できる。以上の上位4決定ポイントの合計は4,827人で全体の約74%に達する。

図表 5-18 受講者の進学選定先決定ポイント

	ポイント	人数	%
1	学費	1,273	19.6%
2	就職実績	1,253	19.3%
3	資格取得実績	1,230	18.9%
4	学校の所在地	1,071	16.5%
5	知名度	418	6.4%
6	両親の薦め	297	4.6%
7	部活やサークル活動	246	3.8%
8	先生の薦め	212	3.3%
9	その他	117	1.8%
10	友達の進路選択	68	1.0%
11	未記入	309	4.8%
	合計	6,494	100.0%

出所：北専各連提供資料をもとに著者作成

⑤受講の参考感

受講者の「参考になった」では、職業・職種講話1,190人88.8％，体験型授業1,386人89.5％であり，高い割合を示している。

図表 5－19 受講者の参考感

		参考になった	どちらとも いえない	参考に ならなかった	未記入
職業・職種講話	人数	1,190人	84人	4人	62人
	%	88.8%	6.3%	0.3%	5.0%
体験型授業	人数	1,386人	111人	11人	40人
	%	89.5%	7.2%	0.7%	2.6%

出所：北専各連提供資料をもとに著者作成

5-2-3 キャリアサポートセミナー（北海道教育委員会主催事業）

(1) 実施会場

令和元年度の実施会場は，日高会場（R元.8.19 静内農業高等学校1・2年生ほか），後志会場（R元.9.9 倶知安農業高校1・2年生ほか），釧路会場（R元.9.13 標茶高校1・2年生ほか），根室会場（R元.9.20 別海高校1・2年生ほか）の4会場で実施している。

各会場の延べ参加人数は，日高会場214人，後志会場91人，釧路会場107人，根室会場199人で合計611人に及んでいる。

開催した講座名及び担当した専門学校は，図表 4－25の通りである。

図表 5－20 会場ごとの講座名，専門学校，延べ受講者数

①日高会場（R元.8.19 静内農業高等学校 1・2年生ほか）

講座名	担当専門学校	延べ受講者数
①自動車整備士の仕事	日本工学院北海道専門学校	28
②ヘア＆メイク体験	北海道美容専門学校	30
③保育士・幼稚園教諭のお仕事	経専北海道保育専門学校	25
④公務員職業ガイド	大原法律公務員専門学校	21
⑤音楽業界まるわかりセミナー	札幌放送芸術＆ミュージック・ダンス専門学校	28
⑥デザインを仕事にしよう	専門学校札幌デザイナー学院	25
⑦スポーツトレーナーの仕事とは	北海道スポーツ専門学校	19
⑧動物看護師体験	愛犬美容看護専門学校	38
延べ受講者計		214

②後志会場 (R元.9.9 倶知安農業高校 1・2年生ほか)

講座名	担当専門学校	延べ受講者数
①自動車整備士の仕事	専門学校北海道自動車整備大学校	7
②ヘア&メイク体験	北海道理容美容専門学校	10
③保育士・幼稚園教諭のお仕事	せいとく介護こども福祉専門学校	4
④公務員職業ガイド	日本工学院北海道専門学校	12
⑤音楽業界まるわかりセミナー	経専音楽放送芸術専門学校	18
⑥デザインを仕事にしよう	専門学校札幌デザイナー学院	20
⑦スポーツトレーナーの仕事とは	北海道メディカルスポーツ専門学校	11
⑧動物看護師体験	エス・ワン動物専門学校	9
延べ受講者計		91

③釧路会場 (R元.9.13 標茶高校 1・2年生ほか)

講座名	担当専門学校	延べ受講者数
①自動車整備士の仕事	札幌科学技術専門学校	19
②ヘア&メイク体験	釧路理容美容専門学校	7
③介護福祉士の仕事を理解する	くしろせんもん学校	15
④公務員職業ガイド	吉田学園情報ビジネス専門学校	23
⑤ホテルのお仕事体験セミナー	経専北海道観光専門学校	11
⑥音楽業界まるわかりセミナー	専門学校札幌ビジュアルアーツ	8
⑦デザインを仕事にしよう	専門学校札幌デザイナー学院	14
⑧動物看護師体験	北海道エコ・動物自然専門学校	17
延べ受講者計		107

④根室会場 (R元.9.20 別海高校 1・2年生ほか)

講座名	担当専門学校	延べ受講者数
①リハビリのお仕事	札幌医学技術福祉歯科専門学校	24
②保育士・幼稚園教諭の仕事	くしろせんもん学校	22
③公務員職業ガイド	吉田学園情報ビジネス専門学校	42
④医療事務のお仕事を体験しよう	北見情報ビジネス専門学校	19
⑤音楽業界まるわかりセミナー	経専音楽放送芸術専門学校	13
⑥デザインを仕事にしよう	専門学校札幌デザイナー学院	16
⑦スポーツトレーナーの仕事とは	札幌スポーツアンドメディカル専門学校	31
⑧動物看護師体験	経専北海道どうぶつ専門学校	18
⑨製菓技術体験	札幌スイーツアンドカフェ専門学校	36
延べ受講者計		199

出所：以上，北専各連提供資料（2019年版）をもとに著者作成

（３）参加専門学校のアンケート結果

①開催までのやり取り

（回答内容：原文のまま）

- ・各回の参加人数も伝えていただき、準備がしやすかった。
- ・当日の学生のタイムスケジュール以外に、教員、講師の集合時間の記載もあるとありがたい。（複数校回答）
- ・校内図を事前にいただけたので、教室の準備などがスムーズにできた。
- ・機材繰りや人員の確保のため、受講人員の決定はできるだけ早いほうがありがたい。

②開催時期（８月中旬から９月中旬）

（回答内容：原文のまま）

- ・専門学校の年間スケジュールを勘案しても、特に支障はない。（複数校回答）
- ・１年生は進路の考えが深まっていない印象があったが、具体的に考える良いきっかけになったかと思う。
- ・生徒にとっては適切な時期かと思う。
- ・１年生にとっては高校入学後すぐよりも今回の日程のほうが、秋以降の進路活動のきっかけとなりちょうど良かったと思う。２年生にとっても秋以降の具体的な進路選択のきっかけになる良い時期だったと思う。
- ・２年生で開催時期を考えるなら、修学旅行が終わって進路を考えるタイミングも良いのではないかな。
- ・ちょうど良かった。（複数校回答）
- ・進路について具体的に考え始めている生徒も多く、良い時期だったと思う。
- ・進学を検討していない生徒も多かったが、進路を積極的に考え始めるきっかけとなる時期だったと思う。
- ・参加者が２年生ということもあり、具体的に進路を考えている生徒が多く、詳しい話をしやすい時期だった。
- ・１年生は良いが、２年生には夏休み前のほうがオープンキャンパス参加や進路選びの参考になるのでは。

③会場

（回答内容：原文のまま）

- ・特に支障や問題はなかった。滞りなく実施できた。（複数校回答）
- ・重さのある講義用教材を持ち込んだが、教員や生徒の皆さんがお手伝いしてくださり、助かった。
- ・必要な設備を事前に準備していただけており、進めやすかった。（複数校回答）
- ・こちらからの事前のお願いに応えていただき、支障なく開催することができた。
- ・生徒と近くで話をすることができ、とても良かった。
- ・広さも申し分がなかった。延長コードを準備していただくなどして大変助かった。
- ・１教室をご提供いただき、スムーズに準備、受入ができた。
- ・お借りしたプロジェクトなど調整も済ませてあり、支障なく開催できた。

④受講者数、受講態度、受講者への要望

(回答内容：原文のまま)

- ・参加生徒が熱心に聞いてくれたので、とても有意義な時間となった。
- ・人数が毎回バランス良く分かれており、生徒も集中して説明を聞いてくれた。積極的な質問などがあると、特にどの部分を聞きたいのかがわかるのでありがたい。
- ・受講者数はちょうど良く、受講態度もとても良かった。(複数校回答)
- ・受講者からあらかじめ質問をいただければ、生徒の知りたい部分をより詳しく説明できたかなと思う。
- ・まじめで真剣に参加してくれていた。積極的に参加していただけた。(複数校回答)
- ・あらかじめ、1回当たりの受講者に上限を設けさせていただいたが、支障なく開催できた。毎回とも興味と関心を持って一生懸命受講していただけたことが素晴らしかった。
- ・真剣に話を聞いていただき、明るく楽しい雰囲気を進めることができた。
- ・生徒全員が積極的に実技に取り組んでくれた。受講者数もちょうど良かった。
- ・受講者全員が真剣に聞いてくれた。全体的に態度も良好だった。
- ・1、2年生が混ざっていると、1年生が少し緊張している印象があった。
- ・他分野への進学を考えている生徒も多かったが、積極的に参加してくれていた。(複数校回答)
- ・メモを取りながらしっかりと聞いている生徒が多かった。実習にも意欲的に取り組んでくれた。

⑤対応する高校教員

(回答内容：原文のまま)

- ・機材の搬入、モニターの調整や席の配置など、丁寧に対応していただけた。(複数校回答)
- ・説明を最後までしっかり聞いていただくなど、教員の方々の前向きな姿勢を強く感じた。
- ・先生から生徒に、より身近に仕事を感じてもらえる体験談をお話ししていただき、大変ありがたかった。
- ・大変丁寧に対応してくださり、ありがたかった。(複数校回答)

⑥開催内容(各50分1日3回の講座開催・時間配分)

(回答内容：原文のまま)

- ・高校の授業配分と同様と考え、講座内容も50分授業に合わせて作成したので問題はなかった。
- ・説明と軽い体験でちょうど良い時間だった。
- ・3回の開催には問題はないが、50分の講座に10分の質問時間などがあればベストかと思う。
- ・生徒の集中も切れることなく実施できたので、ちょうど良かった。(複数校回答)
- ・午後2回程度の開催が集中できるのではないか。(複数校回答)
- ・時間配分等、問題はなかった。(複数校回答)
- ・50分は短く、体験学習の内容が薄くなってしまう。2時間程度いただけるとありがたい。
- ・1回30分になれば、多くの職業を体験できると思う。
- ・調理製菓では開催時間がもう少し長い方が生徒もイメージが得やすいと思う。

⑦旅費及び謝金

(回答内容：原文のまま)

- ・荷物が多く自家用車での移動が基本なので、その点を考慮していただけるとありがたい。
- ・提出書類が多く、簡素化をお願いしたい。
- ・会場が遠方で公共交通機関を使用する場合、前泊についても考慮していただけるとありがたい。
- ・事前に金額など教えていただければ、事務処理もスムーズに行えるのでありがたい。（複数校回答）
- ・遠方の場合の航空機使用の可否など、事前に明確な情報をいただきたい。

⑧その他

(回答内容：原文のまま)

- ・主催者、参加者から講座内容についての評価があると良い。開催目的に沿っていたか、参加者の満足度も含めた講座内容及び担当講師への評価があると、以後の参考にできる。
- ・講座の開催時間に生徒が体験内容をまとめる時間（レポート作成の時間）も入っているのであれば、あらかじめお伝えいただけるとありがたい。
- ・学年を分けて参加いただけるとより生徒に合ったガイダンスができるかと思う。
- ・次年度もこのような機会があれば、ぜひ参加したい。（複数校回答）
- ・担当する講座が３回ではなく２回の場合、開催をどちらかに寄せて、連続して開催できるようにしていただけると移動時間を調整できるのでありがたい。
- ・早い時期に開催校がわかっているとスケジュールが組みやすい。
- ・当日、集合の時点で全体の流れなどのご説明をいただけるとありがたい。
- ・地方の教育資源の活用など、職業教育に関する意見交換ができる機会に発展すると素晴らしい。

出所：以上、北専各連提供資料（2019年版）をもとに著者作成